



2026年12月期 第2四半期(中間期)決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年7月31日

上場会社名 山崎製パン株式会社

上場取引所 東

コード番号 2212 URL <https://www.yamazakipan.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 飯島 延浩

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役

(氏名) 会田 正久

TEL 03-3864-3110

半期報告書提出予定日 2026年8月7日

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2026年12月期第2四半期(中間期)の連結業績(2026年1月1日～2026年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年中間増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年12月期中間期	676,636	4.0	35,850	3.3	37,875	6.8	24,197	5.3
2025年12月期中間期	650,633	5.3	34,690	11.8	35,448	4.2	22,983	6.6

(注) 包括利益 2026年12月期中間期 27,712百万円 (22.3%) 2025年12月期中間期 22,654百万円 (△10.6%)

	1株当たり中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年12月期中間期	122.77	—
2025年12月期中間期	116.11	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年12月期中間期	916,463	523,540	51.5
2025年12月期	931,878	510,828	49.3

(参考) 自己資本 2026年12月期中間期 471,554百万円 2025年12月期 459,881百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	—	—	—	60.00	60.00
2026年12月期	—	—	—	—	—
2026年12月期(予想)	—	—	—	60.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年12月期の連結業績予想(2026年1月1日～2026年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,338,000	2.0	64,000	4.7	67,000	4.2	42,500	3.9	215.73

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無
- (2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(中間期)

2026年12月期中間期	220,282,860 株	2025年12月期	220,282,860 株
2026年12月期中間期	23,378,061 株	2025年12月期	22,728,150 株
2026年12月期中間期	197,090,513 株	2025年12月期中間期	197,933,886 株

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

なお、第2四半期(中間期)決算短信補足説明資料の6ページにセグメント別の売上高及び営業利益の予想を記載しております。

当社は、2026年8月5日(水)に機関投資家及び証券アナリスト向け決算説明会を開催する予定です。この説明会で配布した資料等については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○ 添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1)経営成績に関する説明	2
(2)財政状態に関する説明	3
(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
(1)中間連結貸借対照表	5
(2)中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	7
中間連結損益計算書	7
中間連結包括利益計算書	8
(3)中間連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4)中間連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	12
3. 補足情報	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間（2026年1月1日～2026年6月30日）におけるわが国経済は、企業業績を下押しする中東情勢の影響はありましたものの、賃上げによる所得環境の改善や政府の経済対策を背景に個人消費に持ち直しの動きがみられるなど、景気は緩やかな回復基調で推移しました。

当業界におきましては、お客様の節約志向や低価格志向が根強い市場環境の下で、油脂や包材等の原材料価格の上昇に加え、人件費や物流費等の上昇もあり、厳しい経営環境となりました。また、コンビニエンスストア業界におきましては、ドラッグストアや小型スーパー等の他業態との競争激化や人件費等のコスト上昇もあり、厳しい経営環境となりました。

このような情勢下にありまして、当社グループは、「いのちの道」の教えに従い、すべての仕事を種蒔きの仕事から開始する営業・生産が一体となった部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を推進し、主力製品の品質向上をはかるとともに、2極化・3極化戦略によって低価格製品を充実する一方で、女性製品開発担当者を中心に付加価値を付けた製品開発に取り組むなど、変化するお客様の求めに応じた隙のない製品開発を推進しました。また、一昨年、新規技術を活用して品質改善を実現した「ダブルソフト」の技術を更に前進させた品質改善技術を、本年1月に主力の「ロイヤルブレッド」に導入し、さらに他の食パン、菓子パン、和洋菓子製品等にも活用し、業績向上をはかりました。

また、当社は労働安全衛生管理体制の充実強化を推進し、労働安全衛生推進基本会議を毎月開催して、経営陣、本社各部・各工場が一体となって、労働安全衛生に関する問題課題の解決に取り組むとともに、従業員と管理・監督職による2本立ての労働安全衛生管理体制の充実強化をはかり、業績向上対策とともに働く職場の安全安心の実現をめざしました。

デイリーヤマザキやフレッシュベーカーリーの小売事業につきましては、小売事業業績改善プロジェクトにおいて日次管理・週次管理・時間管理の経営手法により問題課題を正確に把握して原因を追究し対応策を推進するなど、日々の仕事の精度向上をはかりました。また、小売事業本部内の戦略製品・戦略商品開発推進チームと連携し、新規技術により品質向上をはかった冷凍生地を活用するとともに、女性製品開発担当者の感性を活かした競争力のある商品開発を推進するなど、業績向上をはかりました。

当中間連結会計期間の業績につきましては、売上高は6,766億36百万円（対前年同期比104.0%）、営業利益は358億50百万円（対前年同期比103.3%）、経常利益は378億75百万円（対前年同期比106.8%）、親会社株主に帰属する中間純利益は241億97百万円（対前年同期比105.3%）となり、ヤマザキの技術を活用して品質向上を推進したこともあって山崎製パン(株)単体の業績が順調に推移するとともに、連結子会社の業績が好調に推移し、増収増益となりました。

セグメント別の状況

<食品事業>

食品事業の主要製品別の売上状況は次のとおりであります。

①食パン部門（売上高639億42百万円、対前年同期比102.6%）

食パンは、1月に品質向上をはかった主力の「ロイヤルブレッド」が伸長するとともに、チェーンオリジナル対応を含む低価格食パンが大きく伸長し、前年同期の売上を上回りました。

②菓子パン部門（売上高2,546億40百万円、対前年同期比104.5%）

菓子パンは、主力の「まるごとソーセージ」が大きく伸長するとともに、品質向上をはかった「コッペパン」などの主力菓子パンや「アップルパイ」、「ずっしりデニッシュ」シリーズなどのペストリーが伸長しました。さらに、(株)YKベーキングカンパニーをはじめヤマザキの技術を積極的に活用した製品が好調に推移し、前年同期の売上を上回りました。

③和菓子部門（売上高417億35百万円、対前年同期比106.4%）

和菓子は、主力の串団子や大福が好調に推移するとともに、品質向上をはかった主力の「北海道チーズ蒸しケーキ」や低価格製品の「やまざき蒸しパン」が大きく伸長し、前年同期の売上を上回りました。

④洋菓子部門（売上高 841 億 58 百万円、対前年同期比 103.1%）

洋菓子は、品質向上をはかった 2 個入り生ケーキや「イチゴスペシャル」などのスペシャルシリーズが伸長するとともに、新規技術を活用してクリーム風味向上をはかった「大きなツインシュー」などのシュークリームが大きく伸長し、前年同期の売上を上回りました。

⑤調理パン・米飯類部門（売上高 854 億 55 百万円、対前年同期比 101.2%）

調理パン・米飯類は、(株)サンデリカにおいて、サンドイッチを中心に主要取引先であるコンビニエンスストアチェーンや量販店との取引が増加し、前年同期の売上を上回りました。

⑥製菓・米菓・その他商品類部門（売上高 992 億 78 百万円、対前年同期比 106.5%）

製菓・米菓・その他商品類は、(株)不二家の「ホームパイ」が好調に推移するとともに、ヤマザキビスケット(株)の「エアリアル」や(株)東ハトの「ポテコ」等のスナック製品が伸長し、前年同期の売上を上回りました。

以上の結果、食品事業の売上高は6,292億11百万円（対前年同期比104.1%）、営業利益は348億6百万円（対前年同期比105.3%）となりました。

<流通事業>

デイリーヤマザキのコンビニエンスストア事業につきましては、「いのちの道」の教えに従い、運営・商品が一体となってオリジナル商品の開発に取り組むとともに、戦略製品・戦略商品開発推進チームと連携して新規技術を活用したデイリーホットベーカリーの商品開発を推進し、お客様に喜ばれるヤマザキ独自のコンビニエンスストアチェーンをめざしました。また、松戸・杉並ドミナントプロジェクトの取組みを大阪ドミナントに拡大し、大阪エリアの工場と連携してデイリーホットを中心に収益の改善をはかるとともに、売り場づくりや店舗改装によりヤマザキらしい店づくりに取り組むなど、店舗収益の改善をはかりました。

以上の結果、流通事業の売上高は 392 億 4 百万円（対前年同期比 100.7%）となりましたものの、人件費等のコスト上昇もあり営業損失は 9 億 57 百万円（前年同期は 2 億 43 百万円の営業損失）となりました。

<その他事業>

その他事業につきましては、売上高は 82 億 20 百万円（対前年同期比 114.8%）、営業利益は 17 億 74 百万円（対前年同期比 108.9%）となりました。

(2)財政状態に関する説明

当中間連結会計期間末の資産合計は 9,164 億 63 百万円で、前連結会計年度末に対して 154 億 15 百万円減少しました。流動資産は 3,493 億 33 百万円で、売掛金の減少などにより、前連結会計年度末に対して 161 億 37 百万円減少しました。固定資産は 5,671 億 30 百万円で、投資有価証券の増加などにより、前連結会計年度末に対して 7 億 22 百万円増加しました。負債合計は 3,929 億 23 百万円で、支払手形及び買掛金などの支払債務の減少や借入金の返済などにより、前連結会計年度末に対して 281 億 27 百万円減少しました。純資産は 5,235 億 40 百万円で、利益剰余金の増加などにより、前連結会計年度末に対して 127 億 12 百万円増加しました。

この結果、自己資本比率は 51.5%となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前中間純利益 367 億 24 百万円に加え、減価償却費 220 億 36 百万円などにより 624 億 11 百万円のプラスとなり、前年同期に対しては 3 億 92 百万円収入が増加しました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出などにより 331 億 83 百万円のマイナスとなり、前年同期に対しては 47 億 71 百万円支出が増加しました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払、借入金の返済などにより 227 億 89 百万円のマイナスとなり、前年同期に対しては 92 億 10 百万円支出が増加しました。

以上の結果、現金及び現金同等物の当中間連結会計期間末残高は 1,632 億 28 百万円となり、前連結会計年度末残高に対しては 78 億 4 百万円の増加となりました。

(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しといたしましては、わが国経済は、所得環境の改善が進み、政府の経済対策の効果もあって、個人消費は持ち直しに向かうことが期待されますが、中東情勢の影響が懸念され、景気の先行きは予断を許しません。

当業界におきましては、お客様の節約志向や低価格志向が根強い市場環境の下で、主原料である小麦粉や油脂、包材等原材料価格の上昇に加え、人件費や物流費、光熱水費の上昇が予測され、厳しい経営環境になるものと思われます。

このような状況下にあります、当社は、2026年7月1日出荷分から一部の食パン、菓子パン及び和洋菓子製品の価格改定を実施しましたが、各部門毎に施策・戦略を推進し、各部門においてヤマザキの技術を活用した品質向上をはかるなど準備を丁寧に進めたことや、各工場で推進している管理職の5S活動が奏功したこともあり、販売数量確保を実現し、業績は順調に推移しております。

当社グループは引き続き、「いのちの道」の教えに従い、すべての仕事を種蒔きの仕事から開始する営業・生産が一体となった部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を推進し、ヤマザキの技術を活用した品質向上に取り組むとともに、チルドパンや惣菜パンの充実強化に取り組むなど、2極化・3極化戦略によって変化するお客様の求めに応じた隙のない製品開発を推進し、業績向上をはかってまいります。また、2本立ての労働安全衛生管理体制を充実強化して、熱中症対策を含め働く職場の安全安心の実現にも取り組んでまいります。

デイリーヤマザキのコンビニエンスストア事業につきましては、「いのちの道」の教えに従い、すべての仕事を種蒔きの仕事から開始するとともに、新しい価値の創造を行う商品本部の充実強化をはかり、商品本部が運営部と一体となって変化するお客様の求めに対応したデイリーヤマザキのオリジナル商品の開発に取り組むなど、デイリーヤマザキのあるべき姿を追求し、業績改善をはかってまいります。

なお、2026年2月12日に公表した通期の業績予想及び配当予想に変更はありません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当中間連結会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	163,820	174,627
受取手形	6	3
売掛金	149,734	118,114
商品及び製品	16,023	17,468
仕掛品	1,046	1,594
原材料及び貯蔵品	18,107	20,037
その他	16,961	17,712
貸倒引当金	△230	△223
流動資産合計	365,470	349,333
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	453,738	458,408
減価償却累計額	△333,092	△336,873
建物及び構築物（純額）	120,645	121,534
機械装置及び運搬具	616,504	622,942
減価償却累計額	△514,789	△522,383
機械装置及び運搬具（純額）	101,714	100,559
工具、器具及び備品	46,868	47,535
減価償却累計額	△37,944	△38,413
工具、器具及び備品（純額）	8,924	9,122
土地	127,207	127,797
リース資産	24,558	24,911
減価償却累計額	△16,466	△16,809
リース資産（純額）	8,091	8,101
建設仮勘定	4,981	4,243
有形固定資産合計	371,564	371,357
無形固定資産		
のれん	5,723	5,218
その他	12,389	12,603
無形固定資産合計	18,112	17,822
投資その他の資産		
投資有価証券	85,913	88,096
長期貸付金	581	519
退職給付に係る資産	53,686	55,415
繰延税金資産	9,225	7,394
その他	29,091	28,300
貸倒引当金	△1,768	△1,777
投資その他の資産合計	176,730	177,949
固定資産合計	566,407	567,130
資産合計	931,878	916,463

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当中間連結会計期間 (2026年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	94,426	85,668
短期借入金	56,129	54,092
リース債務	3,421	3,454
未払法人税等	11,855	13,015
未払費用	44,276	41,824
賞与引当金	6,661	6,455
資産除去債務	58	33
その他	57,327	45,777
流動負債合計	274,156	250,321
固定負債		
長期借入金	39,303	35,299
リース債務	4,807	4,821
役員退職慰労引当金	6,131	6,229
退職給付に係る負債	69,303	70,108
資産除去債務	4,892	4,898
その他	22,453	21,244
固定負債合計	146,893	142,601
負債合計	421,050	392,923
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,014	11,014
資本剰余金	9,691	9,691
利益剰余金	406,573	418,752
自己株式	△55,517	△57,741
株主資本合計	371,761	381,716
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	41,557	42,935
繰延ヘッジ損益	1	0
土地再評価差額金	88	88
為替換算調整勘定	6,681	8,661
退職給付に係る調整累計額	39,789	38,151
その他の包括利益累計額合計	88,119	89,838
非支配株主持分	50,947	51,986
純資産合計	510,828	523,540
負債純資産合計	931,878	916,463

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2025年 1 月 1 日 至 2025年 6 月 30 日)	当中間連結会計期間 (自 2026年 1 月 1 日 至 2026年 6 月 30 日)
売上高	650,633	676,636
売上原価	434,418	451,505
売上総利益	216,214	225,131
販売費及び一般管理費	181,523	189,281
営業利益	34,690	35,850
営業外収益		
受取利息	239	326
受取配当金	1,117	1,176
固定資産賃貸収入	479	473
持分法による投資利益	445	187
為替差益	—	369
雑収入	646	753
営業外収益合計	2,929	3,286
営業外費用		
支払利息	692	865
固定資産賃貸費用	137	123
為替差損	868	—
雑損失	473	273
営業外費用合計	2,172	1,261
経常利益	35,448	37,875
特別利益		
固定資産売却益	94	100
投資有価証券売却益	35	55
関係会社株式売却益	282	—
その他	121	—
特別利益合計	533	155
特別損失		
固定資産除売却損	768	985
減損損失	264	285
その他	326	36
特別損失合計	1,358	1,307
税金等調整前中間純利益	34,623	36,724
法人税等	10,410	11,570
中間純利益	24,213	25,154
非支配株主に帰属する中間純利益	1,230	957
親会社株主に帰属する中間純利益	22,983	24,197

中間連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)
中間純利益	24,213	25,154
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△662	1,328
為替換算調整勘定	442	2,941
退職給付に係る調整額	△1,320	△1,727
持分法適用会社に対する持分相当額	△17	15
その他の包括利益合計	△1,558	2,558
中間包括利益	22,654	27,712
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	22,002	25,915
非支配株主に係る中間包括利益	652	1,796

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	34,623	36,724
減価償却費	20,627	22,036
減損損失	264	285
のれん償却額	826	842
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△75	1
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△30	△258
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△3,229	△3,397
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△18	97
受取利息及び受取配当金	△1,356	△1,502
持分法適用会社からの配当金の受取額	122	204
支払利息	692	865
為替差損益 (△は益)	868	△369
持分法による投資損益 (△は益)	△445	△187
固定資産除売却損益 (△は益)	673	885
投資有価証券売却損益 (△は益)	△35	△55
関係会社株式売却損益 (△は益)	△282	-
売上債権の増減額 (△は増加)	28,358	32,048
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△3,364	△3,742
仕入債務の増減額 (△は減少)	△1,268	△8,422
未払費用の増減額 (△は減少)	△2,495	△2,678
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△1,553	△672
その他	△2,145	△1,380
小計	70,754	71,323
利息及び配当金の受取額	1,347	1,486
利息の支払額	△682	△854
法人税等の支払額	△9,400	△9,544
営業活動によるキャッシュ・フロー	62,018	62,411
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額 (△は増加)	△212	△2,877
有形固定資産の取得による支出	△25,054	△27,741
有形固定資産の売却による収入	253	123
無形固定資産の取得による支出	△1,362	△1,656
投資有価証券の取得による支出	△68	△110
投資有価証券の売却による収入	497	90
貸付金の回収による収入	66	75
その他	△2,531	△1,086
投資活動によるキャッシュ・フロー	△28,412	△33,183

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額 (△は減少)	△3,452	△372
リース債務の返済による支出	△1,833	△2,084
長期借入れによる収入	9,872	700
長期借入金の返済による支出	△4,882	△6,389
自己株式の取得による支出	△3,663	△2,224
配当金の支払額	△8,917	△11,798
非支配株主への配当金の支払額	△701	△621
財務活動によるキャッシュ・フロー	△13,578	△22,789
現金及び現金同等物に係る換算差額	△69	1,366
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	19,958	7,804
現金及び現金同等物の期首残高	145,939	155,423
現金及び現金同等物の中間期末残高	165,897	163,228

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2026年2月25日開催の取締役会決議に基づき、自己株式649,800株の取得を行っております。この結果等により、当中間連結会計期間において、自己株式が2,224百万円増加し、当中間連結会計期間末において自己株式が57,741百万円となっております。

(セグメント情報等)

Ⅰ 前中間連結会計期間 (自 2025 年 1 月 1 日 至 2025 年 6 月 30 日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	中間連結 損益計算書 計上額(注)2
	食品事業	流通事業	その他 事業	計		
売上高						
食パン	62,345	—	—	62,345	—	62,345
菓子パン	243,606	—	—	243,606	—	243,606
和菓子	39,217	—	—	39,217	—	39,217
洋菓子	81,639	—	—	81,639	—	81,639
調理パン・米飯類	84,468	—	—	84,468	—	84,468
製菓・米菓・その他商品類	93,243	—	—	93,243	—	93,243
その他	—	38,951	7,057	46,008	—	46,008
顧客との契約から生じる収益	604,520	38,951	7,057	650,529	—	650,529
その他の収益	—	—	103	103	—	103
外部顧客への売上高	604,520	38,951	7,160	650,633	—	650,633
セグメント間の内部売上高 又は振替高	7,598	4,783	24,199	36,582	△36,582	—
計	612,119	43,735	31,360	687,215	△36,582	650,633
セグメント利益又は損失 (△)	33,069	△ 243	1,630	34,455	235	34,690

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額 235 百万円は、セグメント間取引の消去であります。

2 セグメント利益又は損失は中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当中間連結会計期間 (自 2026 年 1 月 1 日 至 2026 年 6 月 30 日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	中間連結 損益計算書 計上額(注)2
	食品事業	流通事業	その他 事業	計		
売上高						
食パン	63,942	—	—	63,942	—	63,942
菓子パン	254,640	—	—	254,640	—	254,640
和菓子	41,735	—	—	41,735	—	41,735
洋菓子	84,158	—	—	84,158	—	84,158
調理パン・米飯類	85,455	—	—	85,455	—	85,455
製菓・米菓・その他商品類	99,278	—	—	99,278	—	99,278
その他	—	39,204	8,095	47,300	—	47,300
顧客との契約から生じる収益	629,211	39,204	8,095	676,512	—	676,512
その他の収益	—	—	124	124	—	124
外部顧客への売上高	629,211	39,204	8,220	676,636	—	676,636
セグメント間の内部売上高 又は振替高	7,722	4,509	25,141	37,373	△37,373	—
計	636,934	43,714	33,361	714,010	△37,373	676,636
セグメント利益又は損失 (△)	34,806	△ 957	1,774	35,623	227	35,850

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額 227 百万円は、セグメント間取引の消去であります。

2 セグメント利益又は損失は中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 補足情報

(1) 連結販売実績

(単位: 百万円)

セグメント名称	区 分	前中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)		当中間連結会計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)		比 較 増 減	
		金 額	構 成 比	金 額	構 成 比	金 額	前年同期比
食品事業	食 パ ン	62,345	9.6%	63,942	9.5%	1,596	102.6%
	菓 子 パ ン	243,606	37.5	254,640	37.6	11,034	104.5
	和 菓 子	39,217	6.0	41,735	6.2	2,518	106.4
	洋 菓 子	81,639	12.5	84,158	12.4	2,518	103.1
	調理パン・米飯類	84,468	13.0	85,455	12.6	987	101.2
	製菓・米菓・その他商品類	93,243	14.3	99,278	14.7	6,035	106.5
	食 品 事 業 計	604,520	92.9	629,211	93.0	24,690	104.1
流 通 事 業		38,951	6.0	39,204	5.8	253	100.7
そ の 他 事 業		7,160	1.1	8,220	1.2	1,059	114.8
合 計		650,633	100.0	676,636	100.0	26,003	104.0

(2) 主要子会社実績

(単位: 百万円)

	売 上 高				営 業 利 益			
	2025年 中間期	2026年 中間期	増 減 額	増 減 率	2025年 中間期	2026年 中間期	増 減 額	増 減 率
(株)不二家〈連結〉	56,686	59,410	2,723	4.8%	1,202	297	△ 905	△ 75.3%
(株)サンデリカ	57,359	58,439	1,080	1.9	2,000	2,065	64	3.2
(株)YKベーキングカンパニー〈連結〉	19,737	20,942	1,204	6.1	459	833	373	81.2
ヤマザキビスケット(株)	18,187	19,119	931	5.1	1,890	2,132	242	12.8
(株)東ハト	15,414	16,718	1,303	8.5	1,126	1,261	135	12.0
(株)ヴィ・ド・フランス	14,727	15,148	420	2.9	779	908	129	16.7

(3)2026年12月期第2四半期(中間期)の単体業績(2026年1月1日～2026年6月30日)

①単体経営成績

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売 上 高		営 業 利 益		経 常 利 益		中 間 純 利 益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年12月期中間期	462,378	3.1	23,370	2.6	26,800	8.6	18,120	4.3
2025年12月期中間期	448,411	4.1	22,777	4.2	24,674	△ 3.2	17,380	△ 1.2

②単体財政状態

	総 資 産	純 資 産
	百万円	百万円
2026年12月期中間期	585,137	349,800
2025年12月期	598,007	344,259

(注) 単体業績数値は、財務諸表等規則に基づいて作成しておりますが、法定開示におけるレビュー対象ではありません。

(4)単体販売実績

(単位: 百万円)

期 別 品 種 別	前 中 間 会 計 期 間 (自 2025年1月 1日 至 2025年6月30日)		当 中 間 会 計 期 間 (自 2026年1月 1日 至 2026年6月30日)		比 較 増 減	
	金 額	構 成 比	金 額	構 成 比	金 額	前年同期比
食 パ ン	57,267	12.8%	58,509	12.6%	1,241	102.2%
菓 子 パ ン	204,889	45.7	211,843	45.8	6,953	103.4
和 菓 子	38,519	8.6	40,686	8.8	2,166	105.6
洋 菓 子	61,378	13.7	64,180	13.9	2,801	104.6
調理パン・米飯類	30,333	6.7	30,364	6.6	31	100.1
製菓・米菓・その他商品類	25,521	5.7	26,325	5.7	803	103.1
小 計	417,909	93.2	431,908	93.4	13,999	103.3
デイリーヤマザキ事業	40,903	9.1	40,989	8.9	85	100.2
内 部 消 去	△ 10,401	△ 2.3	△ 10,519	△ 2.3	△ 117	—
合 計	448,411	100.0	462,378	100.0	13,967	103.1